

「元氣な西風！今日も何処かで。」では、自分の信じる道を歩き、輝きを放ちながら周りにもパワーを与える同窓生や在校生にスポットをあて、中二回卒増田正雄氏（取材当時九十九歳）を筆頭

代表幹事 大村明弘高44回）平成二十四年一月二日、本日もグランドホテル浜松において、盛大に「新春の集い」を開催できましたことを、まずは心より御礼申し上げます。

今年の「新春の集い」は、未来への活力、西高同窓生の連帯感を高めたく、『元点回起 元氣なココロを共有し、さらなるパワーアップを！』をテーマに活動を進めてまいりました。

今回は旧友との再会や世代を超えた交流による新たな出会いを通じて、西高同窓会の素晴らしさを改めて実感できる集いとしたく、記念誌および当日の催しを企画しました。記念誌企画

二〇一二年
新春の集いを終えて



に十名の「元氣人」を取材し、記事にさせていただきました。新春の集い当日は、同窓生がかつて身にまとっていた学ランの銀ボタンをあしらったストラップの販売、各年代の同窓生テーブルに伺いインタビューを敢行した突撃レポート、ドキドキOBグループ紹介（第一位 柔道部）、新春大抽選会などを通じ

て、同窓生同士の交流、同窓生の活躍や元氣な様子をお伝えすることができたと感じております。

還暦を迎えられた高二十二回卒の皆様には多数のご参加、記念誌記事へのご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、記念誌発刊および新春の集い開催にあたり、広告協賛やチケット購入におきましては、多くの同窓生の皆様のご理解とご協力を賜り、あらためて御礼申し上げます。

私自身、新春の集い代表幹事を務めさせていただくにあたり、東日本大震災に代表される日本や世界各地での震災・天災によ



発行 静岡県立浜松西高等学校同窓会
 発行人 稲垣訓宏
 題字 町田晃
 編集 同窓会報編集委員会
 浜松市中区西伊場町3番1号
 電話 053-456-0662
 印刷 (有)和三印刷
 発行部数 14,800
 浜二中卒業生 2,041名
 浜西高卒業生 23,578名
 (内女子4,988名)
 内23年度卒業生240名(116名)

ANNUAL REUNION OF THE ALUMNI
 静岡県立浜松西高等学校同窓会
 2013年新春の集い
輝～人、友、未来
 日時:2013年1月2日(水)14:00より受付15:00開演
 会場:グランドホテル浜松 鳳の間
 主催:浜松西高等学校同窓会 運営:浜松西高第45回(平成5年)卒同窓会幹事会

輝～人、友、未来

新春の集いで仲間との再会、新たな出会いを機に自分の輝きをさらに増し、友と明るく輝く未来をつくろうという意味をこめています。

多数のご参加お待ちしております。

日時：平成25年1月2日（水）15：00～
 場所：グランドホテル浜松
 会費：8,000円（高45回卒以前）
 5,000円（高46回卒以後）
 主催：浜松西高等学校同窓会
 運営：浜松西高第45回（平成5年）卒同窓会幹事会

チケットのお問合せ：090-9229-8978（神村）
 記念誌広告のお問合せ：090-2946-2071（古田）

2012年 新春の集い 決算書 (単位:円)

項目	金額	備考
収入の部		
広告売上	10,319,000	広告協賛企業 500社
チケット売上	7,239,000	チケット販売枚数 981枚
ストラップ売上	485,000	震災支援銀ボタンストラップ販売
雑収入	80,000	祝儀他
預金利息	722	
収入合計	18,123,722	

(単位:円)

項目	金額	備考
支出の部		
会場費	8,877,257	グランドホテル会場費等
景品費	689,713	当日抽選会の景品
印刷費	3,859,891	記念誌、チケット等
通信費	581,429	携帯電話、葉書等
会議費	1,314,917	幹事会、部会経費
事務費	52,983	コピー用紙他
交際費	231,500	西高フォーラム、総会等参加
渉外費	919,230	クライアントとの打合せ他
雑費	322,823	写真代、取材費他
その他		
ストラップ販売原価	266,106	ストラップ製造・販促原価
震災義損金	218,894	中日新聞への義損金
本会計繰入金	788,979	
支出合計	18,123,722	

以上の通り、ご報告申し上げます。

静岡県立浜松西高等学校

高44回卒 2012年新春の集い幹事会

代表幹事 大村 明弘
 会計 山田 孝幸

上記の通り、正確に処理され適正と認めます。

平成24年 4月25日

会計監査 前田 米蔵
 会計監査 市川 静子

る甚大な被害や政治経済の情勢不安、過去の新春の集いの偉大な実績と諸先輩方の叱咤激励を鑑み、歴史ある「新春の集い」の輝を幹事学年としてつなぐこととさせていただきます。しかしながら、二十年振りには再会した高四十四回卒の面々は、真面目で前向き、バイタリティーとユーモアを兼ね備え、「やるからには良いものを持てよう」という熱い思いを持った「いい奴」ばかりでした。会う度に刺激を受け、一生懸命な姿に感銘し、同時に自分の未熟さを反省する日々でしたが、こんな素晴らしい仲間に出会え、企画準備や当日運営に携われたことは、私にとってかけがえのない貴重な経験となり、人生最高の思い出になりました。



思い出になりました。これから高四十四回卒同士の交流を重ね、団結を強め、今後の西高同窓会活動に少しでもお役に立てるよう精進してまいります。二〇一三年の「新春の集い」は



高四十五回同窓生が幹事となります。テーマ「輝く人、友、未来」のもと、精鋭が集い、着々と準備が進んでいると聞いております。来年の新春一月二日には、西高同窓会にまた新しい風を吹き込んでくれることでしょうか。最後に同窓会、同窓生の皆様の益々のご多幸と浜松西高等学校のご発展を祈念申し上げます、代表幹事の言葉とさせていただきます。

同窓会会長挨拶



同窓会会長 稲垣訓宏(高12回)

同窓会の諸兄弟姉の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。いつも同窓会活動にご理解と温かなご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。今年も正月二日の「新春の集い」から、同窓会活動がスタートしました。「元点回起 元気なココロを共有し、さらなるパワーアップを！」をメインテーマに、約八百名に近い西高同窓生諸兄弟姉が一同に会し、旧交を温め、次へのエネルギーを養いました。昨年は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、日本全体が生きていることの原点に立ち返って考えた年でした。当番幹事に当たられた高44回生の方々は、真剣に何度も話し合いを続けて企画を練り、西高卒業生としての誇り、絆を実感できるように、そして、さらに前進する力とな

るように、と準備に努力を続けてくださいました。当日は熱気に満ちた素晴らしい集いとなりました。改めて幹事の皆様方、および多大なご協力を戴いた同窓生の皆様方に心からお礼を申し上げます。早くも来年2013年正月二日の「新春の集い」の準備も着々と始まっているようです。テーマは、「輝く人、友、未来」です。西高卒業後何年ぶりかで出会う友、先輩、後輩を見て、改めて友の良さ、西高の良さ、自分自身の良さに気づき、自信を持って輝いて未来を作ろう、いや、作るんだ、という確信に満ちた言葉だと思えます。高45回生が担当していただきます。新しい企画として、還暦を迎えられる方々のみならず、新成人の方々、卒業後十年を迎える方々、喜寿の方々など節目の年をお迎えの方々にもご登場願う趣向があると聞いています。様々な方に登場いただきたい、さぞ盛り上がることに楽しみにしております。どうぞ西高同窓生諸兄弟姉の皆様には、新年の初めにまずは、新春の集いにご参加されて、西高生の結束を基に英気を養っていただきたいと願っております。浜松西高等学校のますますの活躍と同窓会がますますの発展を祈念してやみません。今後とも諸兄弟の皆様にはご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

校長先生挨拶



校長 木村 功

この四月、校舎の葺が陽春の日差しに明るく映える本校に着任いたしました。九十年に迫る長い歴史と伝統の中で一貫して文武両道を実践し、数多くの素晴らしい実績をあげてきた本校での勤務は、大変光栄であるとともに責任の重さも感じています。同窓会の皆様には、日ごろより本校の教育活動に御理解と御支援を賜り、心から感謝申し上げます。微力ではありますが、本校の更なる発展のために努力する所存ですので、今後ともよろしくお願いたします。

さて、ここ数か月の間に「公立中高一貫校の教育成果」をテーマに特集記事を組んだ雑誌を何冊か目にするごことがありました。

どの雑誌も、進路実績だけでなく、私立一貫校との違い、一般の中学・高校との違いに着目し、「伝統校の復活」「教育課程のゆとりと充実」などを切り口に公立中高一貫校の優位性を示唆する論調が目立ったように思います。全国各地で確実にその教育成果が認められつつあることは本校にとっても心強い限りです。

昨年度、中高一貫校になって十年という節目を迎えた本校では、これまでの取組を様々な視点から検証し、課題解決に向けていくつかの改善を図りつつあります。これまでは、どちらかと言えば教育課程の運用、即ち、併設型中高一貫教育の特色とメリットを生かした学習指導体制の構築に焦点を合わせた取組が主でしたが、これからは「生徒の主体的な学び」を引き出す方策にも目を向け、教育内容の一層の充実と質の向上を目指していきます。

中高一貫十一年目の第一歩。六年或いは三年間、それぞれに与えられた在学期間の中で、生徒一人ひとりが自らの「知・仁・勇」をバランスよく最大限高めていけるようにするために、教育改善への新たな挑戦を続けていきたいと考えています。

平成二十四年度総会報告

六月一六日(土)午後四時より、グランドホテル浜松孔雀の間に、平成二十四年度同窓会総会が開催され、78名の会員の出席を得た。稲垣訓宏同窓会長、木村功名誉会長(校長)の挨拶に続き、今年度の議事について協議がなされた。

議事

- (一)平成二十三年度事業報告
- (二)平成二十三年度決算報告、及び同監査報告
- (三)「二〇一二年 新春の集い」事業報告、決算報告、及び同監査報告
- (四)役員改選
- (五)平成二十四年度事業計画案
- (六)平成二十四年度予算案
- (七)「二〇一三年 新春の集い」事業計画

報告事項

- (一)同窓会の今後のスケジュール
- (二)甲子園出場記念基金について
- (三)浜松西高等学校同窓職員名簿

役員改選

議事の第四号議案にて役員改選案が提示された。選考委員を代表し、中十九回 河合九平氏より、過去二年間の適正な同窓会運営を高く評価した上で、現体制の継続が望ましいとの選考経緯が説明された。また、年度替わりに伴い、新春の集い幹事二名による副会長が高四十四回から高四十五回へ交代することも

発表された。稲垣会長をはじめとする新執行部が承認され、今後の同窓会運営に期待をもてる実力のある面々で構成された。新執行部の役員は以下のとおり。

会長	稲垣 訓宏(高12回)
副会長	御室 健一郎(高16回)
	小笠原守之助(高23回)
	竹内 良訓(高32回)
	岩淵 千江(高39回)
(新春の集い当番幹事より二名)	
	新野 正(高45回)
	中村 和泉(高45回)
会計	鈴木 敏勝(高21回)
会計監査	前田 米藏(高12回)
	市川 静子(高15回)

「二〇一三年 新春の集い」事業計画

新野代表幹事より挨拶があり、テーマである「輝く人、友、未来」について、「新春の集い」での仲間との再会、新たな出会いを機に、自分の輝きをさらに増し、友と明るく輝く未来をつくらう」という願いと、来年一月二日開催に向けた事業計画が発表された。

「甲子園出場記念基金」について

甲子園出場記念運営規則が平成二十三年十一月十八日に改正され、野球部の甲子園出場に向けて同基金運営委員会が推進するプロジェクトに則り、野球部の設備や備品等に基金の一部を有効活用していくことが報告された。

総会終了後は、例年どおり懇親会がスタート。「二〇一三年新春の集い」の新野代表幹事が司会を務め、幹事面々は各テーブルに挨拶とチケット購入のお願いなどにまわり、校歌斉唱の際には、在校当時、応援団長だったという古田 豊氏が壇上上がるなど、高四十五回卒の活躍が目立った。

学年を超えて和やかに行われた懇親会は、恒例の前田氏による力強いリードによる校歌斉唱、エールをもって閉会となった。



平成23年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額 12,416,612 円
 支出総額 4,004,344 円
 差引残額 8,412,268 円

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	6,895,056	6,895,056	0	前年度繰越金
入会金	3,600,000	3,615,000	15,000	高校64回生240名 終身会員入会金1名
基金利子配分金	6,700	6,700	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	1,000,000	788,454	211,546	新春の集い基金剰余金 振込料525円を差し引く
雑収入	20,000	71,402	51,402	預金利子、同窓会名簿売上
空調設備使用料	1,040,000	1,040,000	0	後援会より12年間回収
合計	12,561,756	12,416,612	145,144	

支出の部

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
1 事務費	700,000	550,790	149,210	
事務局費	400,000	366,016	33,984	事務局員給与、事務局維持費等
需用費	300,000	184,774	115,226	複写機リース料、プリンター代等
2 会議費	600,000	315,737	284,263	
総会費	400,000	206,599	193,401	総会会議費
役員会費	200,000	109,138	90,862	役員会、執行部会会議費
3 事業費	4,000,000	3,137,817	862,183	
会報費	2,500,000	2,294,789	205,211	ホームページ運営費、会報印刷代、送料等
助成費	1,500,000	843,028	656,972	慰霊祭、激励費、海外研修援助費、西山賞、講演会謝礼等
4 予備費	7,261,756	0	7,261,756	
合計	12,561,756	4,004,344	8,557,412	

平成24年4月25日
 以上のとおり報告します。

静岡県立浜松西高等学校同窓会 会長 稲垣 訓 宏
 会計 鈴木 敏 勝

上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。

平成24年4月25日 会計監査 前田 米 蔵 印 会計監査 市川 静 子 印

平成24年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計予算書

収入総額 13,774,968 円
 支出総額 13,774,968 円
 差引残額 0 円

収入の部

(単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
繰越金	8,412,268	6,895,056	1,517,212	前年度繰越金
入会金	3,600,000	3,600,000	0	高校65回卒業生240名
基金利子配分金	2,700	6,700	4,000	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	700,000	1,000,000	300,000	新春の集い剰余金
雑収入	20,000	20,000	0	預金利子、名簿代
エアコン設備使用料	1,040,000	1,040,000	0	後援会より23年度から12年間回収
合計	13,774,968	12,561,756	1,213,212	

支出の部

科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
1 事務費	700,000	700,000	0	
事務局費	400,000	400,000	0	事務局職員給与、事務局維持費等
需用費	300,000	300,000	0	複写機リース料等
2 会議費	600,000	600,000	0	
総会費	400,000	400,000	0	総会会議費
役員会費	200,000	200,000	0	役員会会議費
3 事業費	4,000,000	4,000,000	0	
会報費	2,500,000	2,500,000	0	ホームページ運営費、会報印刷代、送料、会報編集委員会運営費等
助成費	1,500,000	1,500,000	0	慰霊祭、歓送迎会、激励費、海外研修援助費、西山賞、講演会謝礼等
4 基金繰入金支出	0	0	0	基金(定期預金)設定
5 予備費	8,474,968	7,261,756	1,213,212	
合計	13,774,968	12,561,756	1,213,212	

科目間の流用を認める

「士会」は続く 高11回卒平成24年同窓会

高校第11回卒業生は、42歳の厄年を機に、節分の頃の土曜日の夜に学年同窓会を開くことを決めた。学級担任だった河合九平先生から「卒業年次の十一の文字をくつつけると『士』になる。諸君は浜西の卒業生の中では、サムライのような学生たちであったから『士会』さむらいかい」と名付けよう」というお言葉をいただいた。その時から28年、士会は一回の休みもなく続けてきた。

当初、恩師の先生方は殆ど全員が参加してくださったが、一人減り二人減りして、最近では3人になった。同窓生の参加は、例年88人前後である。運営の大任は、代表幹事グループが決め、実務は、担当クラスの幹事が取り



仕切る。クラスの数は七つ。だから、7年に一度、担当が回ってくる。その年には、普段顔を出さないメンバーにも声を掛け、役割を振る。

今年は、私たちG組の担当であった。私にも声が掛かって、幹事会に出席した。同窓会の「次第」を決め、幹事の「役割」を決めてゆく。原則として、無役の人はいない。「通知発送」「次第と名簿の印刷」「会計」「先生のお土産の準備」と、自分で自分の役割を引き受ける。「校歌・応援歌」は、元音楽教師が指名された。私は成り行きを見守った。

「今年は物故者の黙祷をやめようか」と幹事長が言った。古稀を過ぎた友人たちが、最近では、次々と鬼籍に入る。それなのに、どうして？と私は思った。「富田君、お被いをやってくれないか」と幹事長が言った。おつ、その手で来たかよ、と私は思った。神職をしている私が、お被いを断る理由はない。しかし、その発言が本気なのかどうか思案して、へらへら笑っているうちに、前回、私の役割だった「司会」が他の人に回っていった。

大学卒業以来、私は公立高校に勤務してきた。そこでは、特定の宗教・宗派の教育は禁じられている。だから、ご祈祷は法律違反ではない（と私は頭の中で反芻した。何度かの幹事会を経て、結局、本気らしいと分かった時、私は「福寿祈願」の祝詞を上げよう



と。死を逃れることは誰も出来ない。昔の人は長寿を願った。しかし、七十歳を過ぎた今、思うことは、人生の価値は長い短いではない。その人なりに、豊かに人生を楽しんできたかどうか重要だと思ふ。ところで、同窓会の中の儀式だから、所要時間は5、6分。その中でピシッと決めなければならぬ。結果として、皆様が喜んでくれたのだから、よしとしよう。その役割の延長上に、この報告書の仕事が出来た。その後、反省会が開かれ、来年からの幹事は、従来のような、クラス順ではなく、更に同窓生からの要望を取り入れ、開催時期・場所も変更。春の彼岸の頃（平成25年は3月23日）、会場は駅前付近、案内状の発送は年明け、と決定した。士会に参加している時の私は、活発な仲間にはまれて圧倒

高12回卒 古稀の集い「開く」

富田直次郎（高11回）

2011・11・11（金）、「1」が6つ並びの日、グランドホテル浜松レアンジェの間に、「93名」が一堂に会して、「古稀の集い」が開かれた。1クラス12、15人と7クラスにわたりバランスよく出席してくれた。新春同窓会の幹事役の年・還暦の年・そして今回の古稀の年、同期の者が集うのは3回目であった。

この集いを開くに当たっては、還暦の集い開催の手法に倣って、役員会を数回開いて開催にこぎつけた。当日は開会に先立って集合写真を撮り、レアンジェの間においてクラス毎に丸テーブルを囲んだ。司会是高見禮吉で、今年最大級の災害にあわれた人たちと、同期で鬼籍に入った人たちのた

めに「黙祷」をささげ、「世話役代表 鈴木計一氏のはじめの言葉」「同窓会長 稲垣訓宏氏の乾杯」を皮切りに歓談へと進んだ。全体での集いは3回目となるのに、何の不思議もなく50数年を一気にタイムスリップして高校時代に帰ってしまったのである。時代は大きく変わってきているのに!!である。席を自由に移動しつつ旧交を温め、話に花を咲かせた。宴たけなわの中を、「前田米藏氏の音頭で中締め校歌斉唱」。さらに会場を変えての2次会、いつ果てるともなく歓談が続いたのであった。

高見 禮吉（高12回）



第八回同窓会講演会

浜松西高のOBで10年前中高一貫校設立時の静岡県教育委員長でいらした杉田豊さん(高9回)を講師に迎え、中等部、高等部千六百六十名の生徒を前に、「中高一貫教育に期待すること」という演題で講演会を開催しました。杉田さんは、5年前より現在に至るまで浜松西高等学校評議員として活躍なさっています。本年は、中高一貫校はじまって10年の節目の年になります。当日の講演内容をかいつまんで紹介します。

以下、講演内容

インターネットで浜松西高等学校を開くと、東坂の門、立派な桜の木の写真が迎えてくれました。概要には、一九二四年創立。初代校長は英語学者の松田与惣之助氏。「知・仁・勇」を校訓に掲げ、英国の名門パブリックスクールであるイートン校を参考に、「ヤング・ジェントルマン」の育成を目指した」とあります。イートン校は多数の著名人を世界に送り出していることで有名です。

校訓の
知とは 高い知性
仁とは 豊かな心
勇とは たくましい心
を示します。



一、21世紀が求める人物像

21世紀の日本の産業界の求める人材には、3つの力が必要です。

志と心 社会の一員としての規範を構え、物事に使命感をもって取り組むことのできる力
行動力 情報の収集や交渉、調整などを通じて困難を克服しながら目標を達成する力
知力 深く物事を探求し考え抜く力
ハーバード大学に志願する受験生の入学願書では、次の点を評価対象にしており、アメリカ社会の求める人間像が見えてきます。
知的好奇心/知的創造性/勉学の成果/リーダーシップ/責任感/自信/温かい人間性/ユーモアのセンス/他人に対する思

いやり/活力/成熟度/率先した行動力/障壁にぶつかつたときの反応/先生から尊敬されているか
これらのことは、校訓の知・仁・勇と重なります。そして、豊かな人間性と社会性を育むことが新しい時代を拓く心へとつながると考えます。

豊かな心とは、
美しいものや自然に感動する心 正義感や公正さを重んじる心 生命を大切にし、人権を尊重する心 他人を思いやる心や社会貢献の精神 自立心、自己抑制力、責任感 他者との共生や異質な者への寛容など

二、中高一貫教育に期待すること
中高一貫教育は、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指したものです。この教育の実現は、
・併設型の特色を生かす
6年間を見通した系統的・計画的に指導する。高校から入学した生徒には、中等部から学んでいる生徒と切磋琢磨して能力を伸ばせるようカリキュラムを工夫する。
・幅広い教養と高い志を育む
総合的な学習の時間を活用する。例えば、中等部2年生で、奈良・京都、中等部3年生でマレーシア等の外国、高等部1年で現代の課題、高等部2年で研究成

果をプレゼンテーションするなど、具体的な総合的な学習である。
・進路希望を実現する
コミュニケーション能力、論理的思考の育成、少人数授業
・中・高一体で取り組む
文化祭、体育祭、コーラスコンクールなど
で実践されている。

知識社会を乗り越えるために必要な要素は、次の4つである。
健康な身体、知的好奇心(向上心)、我慢する心(自立)、己を信じる人生とは、自分の手

でしか開けない。進歩向上したいと望んでいるが、努力を払いたがらない。勉強に耐えられないのは、現代人の病。人生の成功は知識ではなく、勉強によって得られる。困難に立ち向かわなくてもすむようになるのは、人生が終わわり、修養の必要がなくなったときだけ。勤勉・正直・感謝であること。勉強もスポーツもこつこつやらなければ、道は開けない。己を信じて頑張りたい。国際社会のリーダーとして輝くようエールを送りたい。

三、脳と学習
脳は、体重の2%程度の重さ、約千億個の神経細胞(ニューロン)によって営まれている。神経細胞は増殖能力がなく、一日数万個減少する。しかし、二〇〇〇年米国科学アカデミー紀要に、鍛えれば活性化し、増殖することが発表された。脳を育てる

には、文章を声に出して読んだり、人の話を聞いて理解したりすると、右側の脳も左側の脳も活動する。また、試行錯誤を経ることで、脳内に強固なシナプスが形成され、練達していく。コンピュータゲームをしているときには、一部の脳しか使われていない。文章能力や国語力は、勉強や仕事の基本である。この2つを鍛えるには、本を読むことである。しかも、膨大な量を読むことが一番の近道。

最後に、杉田さんは、「後輩の前でお話してきたことを私の宝にしたい。皆さん、健康で活躍されることを祈っています」と締めくくられた。

同窓会専用電話・ファックス
☎/FAX 053-456-0662
Eメールアドレス
hama24@shizuoka.email.ne.jp
毎週水曜日午前9時~12時までは事務員の長尾さんが対応。それ以外はファックス・メール又は、留守番電話にメッセージを録音して下さい。

OB会活動紹介

ボート部OB・OG会

昭和49年3月に初代の卒業生を送り出し、この春には38代目が西高を巣立ちました。非公認ながらOB会として現役世代を支援し始めたのは平成10年頃からです。同級生の結婚式で、西高ボート部で苦楽を共にした友人達と再会したのがきっかけです。当時、国体で静岡県の成年代表、県ボート協会理事、中学のボート部顧問などで再びボートに携わるようになった昭和60年前後の卒業生がOB会の中心となつて活動を始めました。活動としては、5月に佐鳴湖で行われる「五月レガッタ」、初夏に天竜で行われる「ボートフェスティバルin天竜」などの市民大会へ参加しています。2006年には、「さなる湖会」として浜松市の代表として「第15回全国市町村交流レガッタ南砺大会」に出場し、壮年の部で見事準優勝を勝ち取りました。また昨年からは10月の高校新人戦と同日開催が始まった「オータムレガッタ OB・OG戦」では現役生の応援のもと、清水南高との一騎打ちを制し、記念すべき第1回王者となりました。今後多くの高校のOB・OGの参加が期待されます。

の減少の影響を受け、部員数が1名まで減つた時期がありましたが、その後「勉強との両立がしやすい運動部」という評判が功奏し現在では40名まで急増、ここ4年間で全国大会出場の常連になりつつあります。特に中等部3年の秋から高等部の活動に入るため、1年生が夏には戦力となり新人戦では抜群の強さを誇るようになりました。こうした現役生の活躍を支える活動として、新艇を寄贈して陰から支えるのもOB・OG会の大きな役割の一つです。5年間で2艇の新艇寄贈、また台風によって破損してしまつたコーチモーターボートの修繕費の支援などを行ってきました。詳しい活動についてはホームページをご覧ください。(http://masatbo.com/hamanishirc/)

高40回 鈴木政晴

【ボート部の主な戦績(単独チーム)】

- 昭和62年全国総体男子フォア4位
- 平成元年全国総体男子フォア出場
- 平成6年全国選抜大会男子シングル(太田)優勝
- 平成8年全国総体男子フォア出場
- 平成15年全国総体男子フォア出場
- 平成21年全国選抜大会男子ダブル6位
- 平成22年全国選抜大会男子クオドルブル7位
- 平成24年全国選抜大会女子ダブル7位
- 平成24年全国総体女子ダブルこれから大会
- 【ボート部の主な戦績(静岡岡島選抜チーム)】
- 平成7年国民体育大会男子ダブル(岩田)優勝
- 平成21年国民体育大会男子ダブル

ル(中桐)出場 男子クオドルブル(涌井)出場
平成22年国民体育大会女子ダブル(佐藤)出場
平成23年国民体育大会女子ダブル(高橋) 6位



寄贈された新艇2艇 (男子ダブルスカル、女子クオドルブル)

対浜松北高OB定期戦

野球

今回は、伝統のOB定期戦が雨天中止となつたため浜松西高校野球部OB会の恒例になつていきます。「夏の祭典」の紹介をさせていただきます。『夏の祭典』は毎年、夏の選手権静岡大会抽選日の翌週末に、野球部OBが集い、酒を酌み交わし、野球を肴に後輩たちへの期待から昔ながらの楽しい四方山話まで、皆が思い思いの楽しい時間を過ごします。今年6月30日(土)に浜松

グランドホテル白鳥の間に高46・47回のOBが幹事となり、高34回の清水監督を含む西高野球部関係の先生方に加え、上は高20回大橋基文さんから下は高59回飯田将利さんまで総勢50名の世代を越えた野球部OBが集まり、毎度おなじみの会が始まりました。現役生の練習風景のDVDを上映したり、清水監督の大会への思いを聞いたり、余興として31年前の甲子園出場当時のDVD争奪のゲームと・・・沢山の企画で盛り上がりました。酒が進むにつれ、会場の皆は十年若返り、現役当時のきらきらした少年に戻り時の経つのも忘れ・楽しい、楽しい時間を過ごしました。最後にOB会より現役選手に記念品(ボール)を贈呈し、皆で懐かしい校歌を斉唱し、「球場であいましょう!」を合言葉にお開きとなりました。また来年が楽しみでです。(高29回 村上由喜孝)

サッカー

第三十七回定期戦結果

現役A戦	浜西 1	0	浜北
現役B戦	浜西 1	0	浜北
現役C戦	浜西 1	0	浜北
OB戦30歳以上	浜西 3	1	浜北
OB戦40歳以上	浜西 1	0	浜北
OB戦50歳以上	浜西 0	6	浜北
OB戦60歳以上	浜西 0	0	浜北
OB戦20歳代	浜西 0	0	浜北
浜松西高校の勝利			

三十七回の西北戦を振り返って
毎年8月の第1日曜日を、浜

松西高校と浜松北高校の現役サッカー部員とOBの方々が集まり定期戦としていましたが、今年度は、はじめての試みとして8/13(土)の午後からの開催としてみました。しかも会場を有玉の人工芝に変更して。理由はとにかく、「多くの両校OBが集まりやすい環境にしてみよう。」ということでした。日程の変更と時間の変更でより多くのOBが来ることを期待していましたが、残念ながら、今回はあまり多くのOBの方々に集まっていただけませんでした。自分たちの試合時間に来て、試合が終われば用事があるようで皆さんお帰りになることが多く結果的に試合を観戦していただけるOBの方々が少なかつたように思われます。来年度の開催に向けて、改めて考えなければならぬことだと思いましたが、やはり定期戦というのは、多くのOBの方に集まっていたらいいので、より意味のあるものになると思います。いろんな年代の試合をみて、様々な年代の人たちと、いろんな会話をすることが一番だと思います。

次回、西北定期戦は浜松西高校側が幹事として行います。より多くのOBが集まれる環境を整えそして、北高校と切磋琢磨していこうと思えます。そして、今後も浜松西高校・浜松北高校のプライドをかけた戦いが続くことを期待しています。

第37回西北戦は浜松西高校の勝利で終えることができました。報告します。

叙勲の人

平成23年秋の叙勲

瑞宝双光章 鈴木育太郎(高3回)
 瑞宝双光章 柴田宏祐(高12回)
 平成24年春の叙勲
 瑞宝中綬章 清水 孝(高3回)
 瑞宝双光章 土屋 勲(高12回)

瑞宝双光章

鈴木育太郎(高3回)



昨年の叙勲に際し、十一月八日国土交通省より鉄道業務功勞に対し瑞宝双光章、勲記を授与され、皇居に参内し皇太子殿下に謁見の栄に浴し、天皇陛下から託されたお言葉を賜りました。国鉄に奉職して三十一年の間特筆する業績もなく組織の一員として上司、先輩からの温かいご指導、同僚からの惜しみないご協力に絶り安全・正確・迅速・快適を旨とする鉄道輸送に日夜従事する職員の下支えを担っていたただけのことであり、私に関わった多くの方々への受章と受け止めております。これも偏に終戦時の混乱期の

六年間西山台での恩師の方々、先輩諸氏同級生との学舎における勉学、部活を通じて培われ糧となった忍耐と己より他人を慮る心の醸成が據り所となったものと思われます。

この度同窓会長の稲垣訓宏様から表彰状と記念品を届けて頂き誠に有難うございました。年齢も人生の第四コーナーに身を置く今日この頃、体のゆるす限り微力ですがボランティア活動を通じて社会の貢献に努めて参りますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。

瑞宝双光章

柴田宏祐(高12回)



私が新装なった白亜の校舎が威容を誇る浜松西高校に入学したのは終戦から十年余り経た昭和三十二年でした。片田舎の小さな中学校を卒業して浜松という都会の一角に立つ高校はあまりにもまぶしく感じました。それまでの田舎暮らしと大きく違う学校生活は一種のカルチャーショックでした。お山の大将のよう、競争相手のいなかった中学校の学習と違って、信頼で

きる多くの友とわき出る泉のように深い見識で教育してくださった先生方に囲まれた高校生活は学ぶことの楽しさを身に付けさせてくれました。高校生活は我が青春のかけがえのない一頁でした。

卒業後、教員養成大学に進み、続いて就いた教職にあつてもジェントルマンを標榜する進取の西高校の気風は私を支え続けてくれたようです。今回の叙勲もこうした西山台精神の延長線上に輝くともし火に他なりません。

瑞宝中綬章

清水 孝(高3回)



改めて叙勲のお祝いとして表彰状と記念品までいただいたのは浜松西高校だけでした。同窓会の皆様に厚く感謝申し上げます。去る四月二十九日、叙勲式及び皇居における拝謁にて天皇陛下からお言葉を賜り、身に余る光栄に浴しました。私は現役時代三十数年に亘り、静岡大学工学部機械工学科において教鞭を取りつつ冷媒や流体

の研究を行ってきました。これらは近代において技術の躍進がめまぐるしい分野であり、また冷媒フロンのおゾン層破壊問題に代表される環境対応への要請にも腐心してまいりましたが、このたびの叙勲という栄誉は、このような研究を取り巻く状況、共同研究された産業界・行政機関の研究者・担当者の皆様、そして身近で支えてくださった多くの皆様のおかげと、深く感謝しております。

記憶をひもとけば、浜松西高時代は天文クラブに所属し当時の先生の勤めもあつて、夜の校庭で仲間と共に獅子座流星群を観測し、観測データを研究機関に送ったものでした。かような高校時代の活動が、私が理科系の道に進むきっかけとなったのだと、感謝の念とともに今懐かしく思い出されます。

今後とも浜松西高同窓生の皆様が更なる研鑽を積まれ、社会の様々な方面でご活躍されることを祈念申し上げます。

瑞宝双光章

土屋 勲(高12回)



この度、春の叙勲の栄に浴し

五月三十一日、ホテルオークラ東京にて伝達式、皇居豊明殿において拝謁と、貴重な体験をしておいて拝謁と、貴重な体験をしておいてまいりました。

新聞発表以降、多くの方々から祝電や祝詞をいただき、皆様方の支えがあつて職務を遂行できたんだなど、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

子どもが好きで教員の道に進みました。が、結果的には公職にあつた四十三年間の内、半分は県教委、市教委等の教育行政に身を置くことになりました。その間、常に現場主義を貫き、子どもたちにとってどうすることが良いことを判断基準とし楽しい学校づくりに腐心してまいりました。

苦勞もありましたが、いつも先輩後輩同僚に助けられ楽しく仕事ができました。その上、ご褒美までいただけるとは...

今回は高四十五回の同窓会誌編集委員の方からの依頼、随分歳をとつたと実感しながらコメントを綴りました。浜西高同窓生の皆様の益々のご活躍を祈念しご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

活躍する同窓生

作家デビューの二年

七尾与史 石川直義(高40回)

僕が七尾与史というペンネームを名乗ってから今年の七月で二年になります。作家デビューしてからの二年は自分の人生でもいい意味で激動といえるものでした。出版業界はもちろん著名な作家さんやテレビ業界、ラジオ業界の人たちなど今までまったく縁のなかった方たちと知り合いになつたりお話をする機会を持つことができました。またサイン会や講演会、はたまたテレビ出演などさせていただきましたが、自分の仕事とは今でも思えません。

夢の中の出来事というほか他人事というか、とにかく自分のやっていくことという実感が持てない。先日、僕のデビュー作がちょっとだけ再現ドラマとして全国放映されましたが、それすらも他人の作品を見ているようでした。よくシンデレラストーリーなんて言葉が使われますが、今の自分は「プチ」がつきますがそれじゃないかと思ったりもします。自分の書いたストーリーが何万人、作品によっては十万人以上の読者に読まれているということが未だに信じられません。もちろん

評価は賛否でしようけど、「七尾与史の作品を読みたい」と言ってくれる読者さんたちも少なくありません。サイン会を開けば百人くらいの人たちが列を作って僕の本を持ってきてくれます。そんな時「今まで取り立てて取り柄のない人生を送ってきた僕に何が起こったんだらう?」と思います。日頃の行いもそんなにいいわけじゃありませんしね。

高校時代は読書とは無縁でした。でも映画が大好きでよく行きましたよ。あの頃は中央劇場とかテアトル有楽とか松菱劇場とか浜松の繁華街に映画館がたくさんありましたよね。今だから言えるけど学校サボって『悪魔の毒々モンスター』みたいな映画を見に行つたわけです。あの頃は「映画の仕事に就けたらいいなあ」という仄かな夢がありました。といつても実現を目指していたわけじゃなくかなわぬ程度の認識でした。結局僕は歯医者者の大学に進んでいくわけです。(国公立ではそこしか合格できなかった)転機は30過ぎてからです。ある文学新人賞に戯れに挑戦してみたらいきなり最終選考に残ってしまったのです。「もしかしたら才能あるかも」と思った僕は作家を目指し数年後にデビューを果たします。ということとは次の目標は必然的に

映画化です。映画の仕事に就きたいという夢は映画とは無関係の経路をたどって、40を超えた年齢で挑戦です。実は映画化や連ドラの話はいくつか来ていたようなのですがまだ実現してません。こればかりは運の要素が大きいようです。

【一部作品紹介】



「死亡フラグがたちました」



「失踪トロピカル」



「ドS刑事～朱に交われれば赤くなる殺人事件～」



「殺しも芸の肥やし」



「山手線探偵」

ことばに魅せられて



三輪(伊藤)有里子(高45回)

私がアナウンサーという職業を選んだ原点は、まさに西高時代の経験にあります。それは当時、母の勧めで行ったカナダへの語学留学です。初めて日本をとびだし教科書で学んできた英語を使って面白い物する、外国の友達と趣味や恋愛について、国のことについて心交える。すべてが新鮮でまさにことばというものが生きたツールとなり人をつなぐということを感じた貴重な経験となりました。

それから7年後、そのことばを扱うという憧れの職業に運よく就くことができました。しかし入社してドキドキわくわくしていた気持ちから現実の厳しさの直面し自分の未熟さを痛感するのはさほど時間はかかりませんでした。入社してすぐの仕事は博多駅から生中継。本のランキング発表で乙武洋匡さんの「五体満足」を紹介する際に「五体満足」という言葉はよく聞きますが、「何気なくはなつたひとこと。今考えたらなんと無神経な言葉を軽々しく公共の電波で放っていたのだろうか、

手や足、目の不自由な方々がどんなに不愉快だったかとつくづく感じますが、当時滞りなく中継を行うことにとらわれアナウンサーの命であることばを粗末に扱っていた自分が恥ずかしくなりません。それ以外にも緊張の連続でニュースの言葉を読み間違えたりして先輩から叱られたりなど、数々の苦い経験もありましたが、新人の頃「ことばの怖さ」というものを身にしみて感じたからこそ、その後仕事でもプライベートでもことばをとて大切に扱うよう心がけ、また楽しめるようになりました。今私が一番好きな仕事は苦い経験をした同じあの生中継。特にイベントなどをライブで伝えるものは、そのとき瞬時にどのような切り取って、どのようなことばを乗せたいかを判断しなくてはいけないのですが、それがうまくはまったとき、視聴者の方々が「行ってみたい」といつてくださった時、なんともいえない達成感があります。

略歴

白百合女子大卒業後、福岡の放送局にアナウンサーとして入社。結婚後退社してフリーアナウンサーとして宣伝番組や、ニュース、報道番組のレポーター、中国大連の日本語番組などを担当。その他現在は日本語

や、コミュニケーション教育にも携わる。

”みんなでつくる”を合言葉に

加茂光一郎（高45回）

前職を含め11年半都内で働き、約3年前に家業を手伝うため浜松に戻りました。地元に戻り仕事をやる中で、東名阪の企業に偏りがちな経済活動、その結果、元気を失いつつある地方経済を実感する一方で、地方には「共生する風土」や「つながる（仲間）意識の強さ」が残っていると感じていました。



そんな時、父から「地域活性化を目的としたプロゴルフトーナメント」の構想を聞きました。当初は壮大すぎる話ゆえ、実現可能性や時間的制約などを考えると、私自身一歩ひいた思いでした。が、後に実行委員に名を連ねるメンバーや親交のあったゴルフ関係者の方々の話を伺い、このプロジェクトを通して、日頃漠然と感じるこの地の現状を少しでも好転させてみたい」と思うようになり、以来、かなりはまっていきます。（笑）

を持参し様々なジャンルの方々と会い、賛同者を募る活動から始めたわけですが、当初は「市民ゴルフコンペ」と勘違いされるなど珍道中な日々でした。ですが、次第に、お会いする方から「あの日に会いに行くといいよ」という声が生まれ、徐々に支援の輪も広がりました。そんな広がりの中で、お会いした方が「西高OB」と知り驚きつつも勝手に親近感を覚えていく機会もしばしばありました。

この活動をしていると「同窓」「同郷」など、同じ場所や時間を共有したという仲間意識が、理屈ぬきで、よりつながりを深めるものとなることを再認識させられます。

実際、この大会に関わっている多くの方々（実行委員だけでなく選手や著名人の方も）が、何らかの共通項をもとに、自分のケータイにある仲間と連絡し、イベントを実現しているといっても過言ではないです。

大会の合言葉にある「みんなでつくる」は、そんな活動を象徴したフレーズと感じます。活動の中で得たモノ（つながり・経験）が、私だけでなく大会に関わる「みんな」の仕事や生活のお役に立っているのならば、現状好転の一助となるのかなあ。と事務局の立場から勝手ながら思っています。

略歴
明治大学卒業後（株）NTTデータにて通信業界の新規システム提案に従事。2007年（株）電器堂に入社。2010年より「とお

とつみ浜松オープン」の企画運営に関わる。

海外を飛び回って



酒井 タ子（高45回）

かつて外交官になっていろいろな国に行ってみたくと夢見ていた私は今、開発コンサルタントの仕事をしている。が、「それってどんな仕事ですか」と聞かれると、一口に説明するのは難しい。一応は、発展途上国に行つて現地です仕事をする、と答えるのだが、

一般的には、日本のODA（政府開発援助）として、発展途上国の都市基盤や教育等の開発に関わるプロジェクトを、その最前線として、プロジェクトの進捗管理や技術移転を行うのが開発コンサルタントだ。具体的には、交通計画（高速道路や都市鉄道のマスタープラン）や都市計画、防災計画を策定するチームに参画して、主にGIS（地理情報システム）を担当している。今まで仕事で行った国は、青年海外協力隊として2年間生活したモロッコを含め、ベトナム、インドネシア、ス

リランカ、バングラデシュ、等々10カ国に上る。

海外を飛び回っていると、世界は本当は狭いんだ、と感じる瞬間がある。出張先で西高OBに出会う、ということもそうした瞬間の一つだ。例えば、近年急成長中で日本企業の進出も著しいインドネシアの首都ジャカルタには、浜松出身もしくは縁のある人が集まる浜松会というものがある。そこには、西高OBも何人が参加している、西高会までできてしまうのだ。海外で暮らす日本人社会では、日本語を話したり生活上の情報交換をしたりするため、日本人会や県人会やらが結成されることとはどの国でもよくあるのだが、市レベルで会ができるのは珍しく、浜松人の地元愛と結束の強さがうかがえる。そもそも浜松は製造業が多いので、インドネシアに工場を持つ企業も多く、長期の駐在員として生活している人は多い。そして、浜松人に特有の創造性と「やらまいか」精神を大いに発揮して活躍している人も多いのだ。この先も、海外の、どこかの街角で、そんな浜松人や西高OBに出会えることを楽しみに、海外を渡り歩いていきたい。

略歴
筑波大学卒業後、（株）アルメック入社。二〇〇一年青年海外協力隊（現職参加）にてモロッコ王国フェズ県イムゼル・カンダール市役所に勤務。二〇〇三年（株）アルメック復帰後、ベトナム、インドネシア、他6カ国で開発プロジェクトに従事し、現在に至る。

第11回浜西フォーラム 浜松市副市長 古橋利弘氏後援会

第11回西高同窓フォーラムは平成二十四年二月十八日（土）ホテルコンコルド浜松で、八十名余りの出席者の元行われた。第一部は、「銀木犀の間」にて浜松市副市長の高21回古橋利弘様の講演が行われました。前年の台風時の浜松市の対応や人口問題、地震対策など興味深い講演内容でした。

第二部は、ホテル内「雲の間」に会場を移動しての懇親会。高14回大塚哲雄氏の司会にて進行され、とても和やかな雰囲気の中、様々な世代の方との交流が図られました。また、高33回大村幸広氏から5月開催の「西高同窓ゴルフ大会」の紹介、来年1月の「新春の集い」の代表幹事の高45回新野 正氏から「輝く人、友、未来」のテーマ説明があり、高14回野末武志氏の指揮で応援歌を歌い閉会となりました。



第36回浜松西高同窓ゴルフ大会

大会当日の遠州灘から吹き上げる風は、早朝からいつもより少し穏やかな感じだった。前日の雨が芝生を重くして、プレーに影響がなかったかと心配だったが、アップなされた諸先輩方の笑顔を拝見して、とりあえずは大丈夫だったみたいだとほっとした。

2年ぶりの浜松祭りを終えた10日後の5月の第三水曜日16日に第36回を迎えた浜松西高同窓ゴルフ大会が、晴天の空の下で例年どおり浜名湖カントリークラブを貸切で開催された。お正月に開催されている「新春の



一般1位

シニア1位

集い」と異なり、このゴルフ大会は、男性の諸先輩が多く参加なさる。例年女性は1名か2名の参加だったが、今年はなんと5名の女性の参加者を数えた。ちよつと、嬉しい。女性の参加が増加すると華やかになるの今後、今年をきっかけに女性の参加が多くなるのを期待したい。だが、今年の全体参加者は、残念ながら200名を下回って、前年と比べて9割に減り、183名であった。ただし、どのコースも3名パーティーが多くスムーズなプレーの流れになったと思う。

昼食後の表彰式の準備が終わる頃になると大きなトラブルもなく、ぞくぞくとプレーアップの先輩方を尻目に、成績表のコーナーは大会の終盤に向けて忙しくなってきた。そんな中、同期の仲間とのプレーが終われば、16時からの表彰式を待たずに帰宅される諸先輩も残念ながら例年のごとく少なくなかない。ちよつと、悲しい。

我々幹事とすれば、この西高同窓ゴルフ大会を愉しんでいただければ、それも良しと思う。特に今年はチャリティーをやめたので、参加者全員の手土産は渡らない。そのことも影響があるのかもしれないが、多くの人の要望全て叶えるのは難しいと感じた。でも、大会当日はゴルフを楽しめる諸先輩の笑顔が見られ、約半年の準備期間の

苦労も報われたと感じている。そして、「新春の集い」から10年を経て再び一つのテーマに向かつて協力し、同窓生の絆を再確認できたことが何よりであった。今後、後輩諸君にも「新春の集い」の時よりもあまり、気負わずに幹事自身も楽しんでこの大会を運営してくれる事を期待する。

(幹事学年 高33回卒一同)

競技の結果は、以下の通りです。

シニアの部

- 高12回以上 62名参加
- 優勝 鈴木 敬(高10)
- グロス85 ネット69・4
- 第2位 松山巨男(高11)
- グロス75 ネット70・2
- 第3位 落合 武(高6)
- グロス99 ネット71・4

一般の部

- 高13回以下 116名参加
- 優勝 成田朋正(高34)
- グロス75 ネット69・0
- 第2位 吉田信吾(高31)
- グロス103 ネット69・4
- 第3位 松本清明(高30)
- グロス76 ネット71・2

レディースの部

- 5名参加
 - 優勝 鈴木亮子(高25)
 - グロス117 ネット77・0
 - 第2位 花田雪乃(高34)
 - グロス101 ネット78・2
 - 第3位 石川江利(高30)
 - グロス111 ネット78・6
- (以上敬称略)

「まだまだ」と思っているのは？



鈴木 均(高23回)

還暦を辞書で引くと、「数え年61歳の称。華甲(かこう)、本卦(ほんげ)返りともいう。甲はキノエネの甲で歳の意である。還暦、本卦返りというのは、干支によって年齢を数える時、数え年61年目に、生まれ年と同じ干支に戻るからである。古くは40歳から10年目ごとに祝いをしたので60歳を祝ったが、室町の末ごろから61歳の還暦を祝う風習がみられるようになった。期日は11月15日の七五三の日などにした」とある。

自分の父親の還暦のお祝いに赤い頭巾とちゃんちゃんこをプレゼントした事をしっかりと記憶しているが、いつの間にか自分が迎えることになってしまった。定年と同じ年齢なので世間から「お疲れ様」と言われているようなものだが、本人は「まだまだ」と思っているのだ。気持ちの上だけでなく、ローンの返済がまだ残り、年金だけでは

あてにならず、のんびりしている場合ではない現実もあり「まだまだがんばらねば」が本音である。

ただ、気持ちとは裏腹に年齢を感じる出来事も確実に増えて来ている。現実には情報化の時代だと人に語ってはいるが、ツイッター、フェイスブックなど言葉だけ知っているだけで、触るのさえ怖くなりつつあり、「そんなもの！」と片付けている。何がよいのか理解できない年齢になって来ている。しかも、素直に質問出来ない、いやどう質問してよいのか分からないのだ。

しかし、高校を卒業して四十年たつが、同級生も社会で揉まれ、何となく角が取れ、ありのままの自分の姿で気楽に会え、肩の力を抜いた会話が出来るようになって来ている。現在、浜松でつきあいある同級生は、高校時代にクラスも違い会話さえしなかった同級生が殆どである。それが同窓会の行事で再会し会話が始まり定期的に会う回数が増え、現在に至っている。新春の集いに向け、多くの同級生に集まって貰うべく声をかけ始めているが、同級生との付き合いは始まったばかりで、フェイスブックならぬフェイスブックの付き合いは「まだまだ、これから」である。

平成23年度クラブ成績一覽表

Main table of club performance results for the 23rd year, categorized by sport (陸上, 水泳, 野球, etc.) and competition level (浜松市大会, 県大会, etc.).

Summary table of performance results categorized by competition level: 地区大会に準ずるもの, 県大会に準ずるもの, and 全国大会に準ずるもの.

Summary table of performance results categorized by competition level: 静岡県高校総体, 県大会, 東海大会, 全国大会, 高校新人大会, 県大会, and 東海新人・その他協会連盟主催の主な大会.

Y

Z

	静岡県高校総体				高校新人大会			その他協会・連盟 主催の主な大会
	西部大会	県大会	東海大会	全国大会	西部大会	県大会		
陸上	4位 女子走幅跳 女子棒高跳 5位 男子800m 男子三段跳 女子100m 女子400m 6位 男子100m 男子400m 男子800m 男子棒高跳 女子100m 女子走高跳 男子400m 男子1500m 8位 男子400mR	8位 男子110mH			男子棒高跳 男子400mR 3位 女子100m 女子400m 女子100mH 女子走高跳 女子走幅跳 女子棒高跳 女子1600mR 4位 男子100m 男子200m 男子1500m 男子400mH 男子走幅跳 男子三段跳 6位 男子400m 男子110mH 男子棒高跳 男子走幅跳 女子200m 男子400m 男子1500m 男子走幅跳 女子走幅跳 男子走高跳 女子100m	女子走高跳 男子200m 男子800m 女子走幅跳 男子1500m 男子400mH 女子400mH	日本ジュニア 4位 男子400m 日本ユース 3位 女子棒高跳 7位 女子棒高跳	
水泳	男子総合7位 2位 男子100m平泳ぎ 3位 男子200m背泳ぎ 5位 男子50m自由形 5位 男子100m自由形 10位 男子1500m自由形 8位 男子400mメドレーリレー 8位 男子400mリレー 7位 男子800mリレー 女子総合5位 6位 女子200m自由形 7位 女子100mバタフライ 3位 男子800mリレー 女子総合3位 6位 女子200m自由形 7位 女子100mバタフライ 3位 男子400mリレー 女子総合3位 6位 女子200m自由形 7位 女子100mバタフライ 4位 女子400m自由形 5位 女子50m自由形 6位 女子100mバタフライ 5位 女子100m平泳ぎ 7位 女子200m平泳ぎ 3位 女子400mメドレーリレー 4位 女子400mリレー	4位 男子100m平泳ぎ 3位 男子200m背泳ぎ 5位 女子200m自由形 5位 女子50m自由形 4位 女子100m自由形	予選 男子100m平泳ぎ 9位 男子200m背泳ぎ 予選 女子200m自由形 9位 女子50m自由形 10位 女子100m自由形	女子50m自由形出場 JOC女子50m自由形出場 国民体育大会400mリレー出場予定	男子総合5位 1位 男子200m背泳ぎ 2位 男子100m背泳ぎ 4位 男子50m自由形 5位 男子200m自由形 6位 男子1500m自由形 6位 男子400m自由形 6位 男子50m自由形 6位 男子400mメドレーリレー 5位 男子200mメドレーリレー 5位 男子400mリレー 5位 男子200mリレー 5位 男子800mリレー 女子総合3位 1位 女子200m自由形 2位 女子400m自由形 2位 女子200mバタフライ 2位 女子100mバタフライ 2位 女子200m自由形 4位 女子100mバタフライ 6位 女子200m平泳ぎ 6位 女子100m平泳ぎ 8位 女子50m自由形 9位 女子200m自由形 2位 女子400mメドレーリレー 2位 女子200mメドレーリレー 2位 女子400mリレー 2位 女子200mリレー 5位決定戦1-3浜松江之島	1位 男子200m背泳ぎ 2位 男子100m背泳ぎ 7位 男子200mリレー 女子総合5位 2位 女子200m自由形 2位 女子400m自由形 3位 女子100mバタフライ 4位 女子200mバタフライ 3位 女子200m自由形 6位 女子100mバタフライ 5位 女子400mメドレーリレー 5位 女子200mリレー 6位 女子400mリレー 7位 女子200mリレー	東海選手権大会 3位 男子200m背泳ぎ 7位 男子100m背泳ぎ 5位 女子400m自由形	
野球	春季西部大会優勝	春季県大会3位 高校野球3回戦3-4桐陽						
サッカー	高校総体西部ベスト16 高校総体3位	高校総体ベスト16						
男バス	高校総体西部10位 アスカカップベスト32	高校総体県大会出場						
女バス	インターハイシングルス1位 シングルス2位 シングルス18位 ダブルス1位	インターハイ団体優勝 シングルス1・5・6・7位 ダブルス2・3位	東海高校総体団体2位 シングルス出場 ダブルス出場・3位 東海中日ジュニアダブルス3位	高校総体団体ベスト16 シングルス出場 ダブルス出場	新人戦シングルス1・13・14位 新人戦ダブルス2・3・14・26位 新人戦団体戦1位 1年生大会シングルス2・4・13・14位 新人戦男子学校対抗11位	新人戦シングルス1・5・7位 新人戦ダブルス1・4位 新人戦団体戦ベスト8	国民体育大会出場	
卓球	男子シングルスベスト32 女子シングルス5位・9位 男子ダブルスベスト16 女子ダブルス5位 女子学校対抗3位	女子シングルスベスト32 女子ダブルスベスト16 女子学校対抗5位						
柔道	柔道祭西部地区男子団体ベスト8 柔道祭西部地区女子団体ベスト4 男子個人90kg級ベスト4 男子個人100kg級5位 女子個人48kg級4位 女子個人52kg級3位 女子個人57kg級2位 女子個人63kg級4位	県柔道祭男子団体ベスト16 県柔道祭女子団体ベスト16 男子個人90kg級5位 男子個人100kg級ベスト16 女子個人48kg級ベスト8 女子個人52kg級出場 女子個人57kg級ベスト8 女子個人63kg級出場 男子団体ベスト32 女子団体ベスト16			男子団体戦ベスト8 女子団体戦3位 男子個人60kg級ベスト16 男子個人81kg級ベスト16 男子個人無差別級優勝 女子個人52kg4位 女子個人63kg3位 女子個人63kg4位 女子個人無差別級4位	個人男子無差別級3位		
剣道	男子13位・女子11位 男子個人県大会出場 女子個人県大会出場	男子個人準決勝進出						
弓道								
ボート		男子舵手つき3位 女子舵手つき4位 女子ダブルスカル団体出場権	男子舵手つき出場					

文化部 (前期)	地区大会に準ずるもの		県大会に準ずるもの		東海・全国に準ずるもの	
	大会名	成績・結果	大会名	成績・結果	大会名	成績・結果
写真	静岡県西部高等学校写真連盟第1回写真コンテスト	金賞・銀賞・銅賞	静岡県吹奏楽コンクール	金賞 代表	東海吹奏楽コンクール	銀賞
吹奏楽	静岡県吹奏楽コンクール西部大会	金賞 代表	囲碁選手権	女子個人2位	高文祭囲碁部門団体戦	17位
囲碁将棋 (後期)	静岡県西部高等学校写真連盟第2回写真コンテスト	金賞・銀賞・銅賞	県高校写真コンクール兼高文祭写真部門	入選		
写真	静岡県打楽器アンサンブルコンテスト西部大会	打楽器5重奏 金賞 代表、フルート6重奏 金賞 代表	高文祭囲碁部門女子	Bクラス1位		
吹奏楽	高文祭囲碁部門男子個人	Aクラス3位、Bクラス6位				

英語学研修報告

ロンドンオリピックをちょうど一年後に控えた二〇一一年七月に、二名の生徒はイギリスの地で語学研修を受ける機会に恵まれました。研修地はロンドンから電車で一時間ほどのケント州の古都カンタベリー市で、大聖堂で有名な町です。城壁に囲まれた落ち着いた雰囲気町の中心部に、今回我々を受け入れてくれた語学学校コンコルドインターナショナルはあり、期間の前半はクライストチャーチ大学の一部を利用しての授業が行われました。賑やかなメインストリートから少し路地を入ると緑あふれる公園が散在しており、生徒たちはそこを利用して昼食を楽しみました。語学研修には最高の場所だったと思います。

基本的に授業はレベル別に分けられた小集団で行われ、世界各国からの生徒と交流することができました。最初の週はイタリア、スペイン、フランス等のヨーロッパの国々の生徒と、二週目は中国や韓国等のアジアの国々の生徒たちと共に学びました。週始めにクラス分けのテストがあり、西高生はレベル一から六のうち(レベル一が最上位)二から四に全ての生徒が割り振られました。レベル二はかなり高度な授業が展開されており、そんな中でも西高生は堂々と他の国の生徒

と意見を交わしていました。西高生の英語力は語学学校の先生方からしばしば褒められるレベルであり、日頃の授業で鍛えられているせいも、雰囲気慣れしてきた後はプレゼンテーションもスキットも他国の生徒以上の評価を得ていました。また授業に取組む姿勢も前向きで、同じアジア圏の中国の学生たちと比べても断然意欲的な姿勢が目立ちました。



生徒はホームステイ先からの通学となり、生のイギリスの家庭生活を体験することができました。ホストファミリーの職業や家庭環境は様々で、それによって生徒の生活もかなり多様なものになりました。生徒間で情報交換をする中で、当初はお互いを羨ましがったり、不満を漏らす生徒もいましたが、二週目からはすっかり落ち着いてホストファミリーに溶け込んでいました。体調を崩した生徒も出ましたが、ホストファミリーが自分の子供のようにながててくれ、病院へ行ったり、自宅での静養も安心してできました。イギリス人の温かい心に触れた生徒は多いと思います。

二週目の終わりに、「ジャパナイト」と呼ばれる西高生主催のイベントが開かれました。司会進行等全てが生徒の手で行われ、正直、始まる前までは、我々引率教員も不安で仕方ありませんでした。しかし一旦始まってしまくと生徒の能力の高さに驚かされました。用意された出し物はどれも外国人生徒や語学学校のスタッフたちに大受けで、特にダンスや桃太郎を演じた生徒たちは割れんばかりの拍手喝采を受けていました。我々も他国の先生方や学校スタッフから、どうい風にしてこんなに素晴らしいものを準備できたのかと質問攻めにあったほどでした。日本人は自己表現が苦手だという評価を一蹴した一時でした。あれから一年が過ぎ去るうとしていきます。外国の家庭で暮らすことの不安からやっと解放され、外国人の友人も増え、授業でも意見が堂々とと言えるようになったあの夏。今、生徒

の口から、またイギリスへ行きたい、という声があちこちから聞こえてきています。大学入試を間近に控え、この体験が彼等の進路選択にどのような影響を与えたかは計り知れませんが、どのような方向に進むにしろ、世界を常に視野に入れ、国際的な発想で物事を考えることができる人となり、自分の選んだ分野での大活躍を期待したいと思います。

最後に、この研修にご支援いただいた同窓会、後援会の皆様に心より感謝申し上げます。

引率教諭 児玉 清史



藤村 明弘先生

恩師訪問

紫陽花が鮮やかに色を染める6月、藤村先生の現在の職場である浜松北高校を訪れ、お話を伺いました。

先生は、昭和62年から6年間、国語科の教員として浜松西高に勤務されていました。26歳で教員となり、初めての赴任先が浜松西高でした。ボロボロで迷路のようだったと振り返る旧校舎からプレハブ・新校舎へと移り変わった時代を西高生と

もに歩まれました。当時の西高生は「まじめだった。服装や勉強だけでなく、部活や行事にも一生懸命だった。」とおっしゃっていました。他の先生方も非常に個性豊かで影響を受けたそうです。

卒業アルバムを開くと、先生が授業をされている写真がありました。「これ、今と同じ。今もノーネクタイでやってるよ。」確かに当時、先生は扇子片手にノーネクタイというスタイル。クールビズの先駆けだったんですね。思い出深いのは修学旅行に4回も行ったことで、アルバムには先生が撮ったという写真がいくつも並んでいます。また、先生は多くの部活動や生徒会、応援団で顧問や副顧問をされていました。野球部では、一生懸命やっただ夏の大会であり勝ちでなかつたことが悔しく残念な思い出です。落語部は当時、部活動活性化のため増設された部活の一つで落語好きの先生が創設されたそうです。部室も無く空き教室で練習しながら学祭や催事場で部員が寄席を披露していたそうです。残念ながらも今では、幻の部活となっていました。

藤村先生、お忙しい中、本当にありがとうございました。新春の集いでこの続きをお話できること、楽しみにしています。

(高45回 中村和泉・村上樹美)

平成24年度入試結果概要

入試合格状況

	平成24年度			平成23年度			平成22年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立大	104	15	119	72	18	90	106	20	126
私立四大	384	69	453	306	78	384	304	61	365
管外大学校	3	1	4	0	1	1	0	0	0
各種専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8	0	8	3	0	3	6	0	6

私立大学名 (主要大学)	平成24年度			平成23年度			平成22年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
青山学院大	4	1	5	5	1	6	6	1	7
学習院大	0	1	1	0	0	0	1	0	1
北里大	4	1	5	0	0	0	4	0	4
慶応義塾大	6	4	10	10	1	11	8	1	9
国際基督教大	1	1	2	6	0	6	2	1	3
駒澤大	5	1	6	7	0	7	2	0	2
芝浦工大	8	3	11	9	6	15	5	0	5
上智大	2	0	2	0	0	0	3	1	4
順天堂大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
専修大	4	0	4	5	0	5	5	0	5
成城大	0	1	1	3	0	3	0	0	0
中央大	9	1	10	4	2	6	12	3	15
津田塾大	0	0	0	5	0	5	5	0	5
東京医科大	0	0	0	1	1	2	0	0	0
東京女子大	0	0	0	7	0	7	7	0	7
東京農大	9	1	10	4	3	7	4	3	7
東京理大	11	5	16	17	9	26	10	4	14
東洋大	6	1	7	3	1	4	1	1	2
日本大	20	9	29	6	2	8	11	4	15
日本女子大	2	0	2	5	0	5	6	1	7
法政大	10	2	12	15	3	18	13	5	18
東京都市大	2	0	2	2	1	3	2	1	3
明治大	17	4	21	18	6	24	28	3	31
明治学院大	9	1	10	3	1	4	9	1	10
文教大	0	0	0	1	0	1	1	1	2
立教大	6	0	6	9	1	10	15	2	17
早稲田大	21	4	25	16	4	20	15	2	17
神奈川大	5	0	5	2	3	5	1	1	2
岐阜聖徳学園大	1	0	1	1	0	1	1	1	2
常葉学園大	12	2	14	6	0	6	8	0	8
静岡文化芸大	H22年度より公立大学化						3	0	3
聖隷クリストファー大	9	3	12	9	1	10	13	1	14
愛知大	9	0	9	6	0	6	3	0	3
愛知学院大	2	0	2	4	1	5	0	0	0
中京大	12	4	16	3	0	3	7	0	7
豊田工業大	1	0	1	1	0	1	0	2	2
南山大	4	2	6	5	0	5	3	0	3
名城大	8	4	12	7	0	7	2	0	2
名古屋女子大	1	1	2	5	0	5	0	1	1
藤田保健衛生大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
椋山学園大	3	0	3	1	0	1	1	0	1
日本福祉大	1	0	1	2	0	2	0	0	0
京都薬科大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
京都産大	4	0	4	4	0	4	3	0	3
京都女子大	6	0	6	5	4	9	2	0	2
同志社大	4	0	4	7	3	10	9	1	10
龍谷大	2	0	2	4	0	4	1	0	1
同志社女子大	0	1	1	2	0	2	0	0	0
立命館大	28	4	32	13	8	21	7	2	9
関西大	9	0	9	3	0	3	2	0	2
関西外大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
関西学院大	3	0	3	0	1	1	4	0	4
近畿大	2	0	2	2	0	2	0	1	1
神戸女子大	1	0	1	3	0	3	2	1	3
川崎医科大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
私立計	382	69	452	306	78	384	304	61	365

推薦・AO・補欠合格等を含みます。

国公立大学名 (管外大学を含む)	平成24年度			平成23年度			平成22年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
北見工業大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
北海道大	3	0	3	1	0	1	0	2	2
東北大	3	0	3	1	0	1	3	0	3
茨城大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
筑波大	2	0	2	0	0	0	1	0	1
宇都宮大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
埼玉大	2	0	2	1	0	1	2	0	2
千葉大	0	0	0	2	1	3	3	0	3
お茶の水女子大	0	0	0	0	0	0	2	0	2
東京大	4	2	6	2	0	2	3	0	3
東京医科歯科大	0	0	0	2	0	2	0	0	0
東京外大	1	0	1	0	0	0	1	0	1
東京学芸大	0	0	0	1	1	2	4	0	4
東京芸術大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
東京海洋大	1	1	2	0	0	0	2	0	2
東京工業大	0	0	0	1	0	1	3	0	3
東京農工大	2	0	2	2	2	4	0	0	0
一橋大	1	0	1	3	0	3	3	0	3
電気通信大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
横浜国立大	6	0	6	3	0	3	2	0	2
新潟大	0	0	0	2	0	2	0	0	0
金沢大	0	0	0	0	1	1	3	0	3
福井大	1	1	2	0	0	0	2	1	3
富山大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
山梨大	3	0	3	1	0	1	0	0	0
信州大	5	0	5	1	0	1	1	0	1
岐阜大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
静岡大	19	1	20	4	4	8	24	0	24
浜松医大	5	2	7	5	1	6	8	4	12
愛知教育大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
豊橋技術科学大	0	0	0	2	0	2	0	0	0
名古屋大	7	0	7	6	4	10	4	3	7
名古屋工大	2	0	2	1	0	1	1	0	1
滋賀大	1	0	1	0	0	0	0	1	1
京都大	4	0	4	2	0	2	3	1	4
京都教育大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
大阪大	1	2	3	3	0	3	2	0	2
大阪教育大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
神戸大	1	1	2	2	0	2	1	1	2
奈良教育大	1	0	2	1	0	1	0	0	0
奈良女子大	1	0	1	0	0	0	2	0	2
広島大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
岡山大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
山口大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
高知大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
徳島大	0	1	1	0	1	1	0	0	0
香川大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
九州大	0	1	1	1	1	2	2	0	2
宮崎大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
鹿児島大	1	0	1	0	1	1	0	0	0
琉球大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
公立はこだて未来大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
青森県立保健大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
国際教養大	0	0	0	0	0	0	2	0	2
埼玉県立大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
千葉県立保健医療大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
首都大東京	1	0	1	3	0	3	1	2	3
横浜市立大	0	0	0	1	0	1	0	1	1
神奈川県立保健大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
都留文科大	2	0	2	1	0	1	1	0	1
金沢美術工芸大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
静岡県立大	6	1	7	4	1	5	8	0	8
静岡文化芸大	1	0	1	3	0	3	H22年度より公立大学化		
愛知県立大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
愛知県立芸術大	1	0	1	0	0	0	0	0	0
名古屋市立大	1	0	1	0	0	0	2	0	2
岐阜県立看護大	1	0	1	0	0	0	0	1	1
富山県立大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
京都府立大	1	0	1	1	0	1	1	0	1
京都市立芸術大	1	0	1	1	0	1	0	0	0
大阪府立大	2	0	2	2	0	2	0	0	0
大阪市立大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
和歌山県立医科大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
高知工科大	1	0	1	0	0	0	0	1	1
その他	2	0	2	0	0	0	0	0	0
気象大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
防衛大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国公立(管外)計	104	15	119	72	18	90	106	20	126

… R

西山賞とは、「全国レベルで特に優れた業績・功績を挙げた生徒」に対して、三部門別(文化・芸術部門、スポーツ部門、善行部門)に同窓会から卒業時に授与されるものです。

中等部

- 文化芸術部門
大川七彩
「平成24年 第33回全日本リコーダーコンテスト」出場
松本桃佳
「平成24年 第33回全日本リコーダーコンテスト」出場
小栗由伽吏
「平成24年 第33回全日本リコーダーコンテスト」出場
村松紗也香
「平成24年 第33回全日本リコーダーコンテスト」出場
米澤 和
「平成24年 第33回全日本リコーダーコンテスト」出場
古田 響
「雨活アイデアコンテスト2011 ポスター部門」最優秀賞
全国一位
永田真理奈
「平成22年 税に関する作文コンクール」名古屋国税局長賞
加藤朱梨
「第60回 全国小中学校作文コンクール」静岡県教育長賞 全国出品
スポーツ部門
猿渡万優子

高等部

- 文化芸術部門
中川栄実子
「平成23年 青少年読書感想文コンクール」静岡県教育委員会教育長賞(最優秀賞)全国大会出品
向山史織
「第35回全国高等学校総合文化祭囲碁部門」団体戦(全国17位42チーム中)
野嶋明日美
「平成23年 第21回日本クラシック音楽コンクール(ピアノ部門)」高校生の部 第5位
スポーツ部門
内山ひかる
「平成22年 全国高校総体テニス競技」ダブルス出場
「平成22年 全国高校総体テニス競技」団体戦ベスト8
「平成23年 全国高校総体テニス競技」団体戦ベスト16
横山直広
「平成21年 全国高校総体陸上競技」男子1600mリレー 出場
「第3回日本ユース陸上」400m6位 400mリレー4位
「平成22年度全国高校総体陸上競技」4x400mリレー6位

- 「アジアジュニア陸上」4x100mリレー3位
「第4回日本ユース陸上」400m優勝
「第66回国民体育大会」少年A 400m3位
「第27回日本ジュニア」400m4位
石田雅大
「平成21年 全国高校総体陸上競技」4x400mリレー
「平成22年 全国高校総体陸上競技」4x400mリレー6位
前田 侑
「第4回日本ユース陸上競技選手権大会」4x100mリレー予選出場
中村圭吾
「第4回日本ユース陸上競技選手権大会」4x100mリレー予選出場
佐藤真実
「平成22年 国民体育大会ポルト競技」女子ダブルスカル準決勝進出

新刊紹介
『浜松おもしろのおと』
同窓生の著作です
松尾良一(高22回)

「平成25年度静岡県立浜松西高等学校・同中等部の入学者選抜」について(予定)

Table with 2 columns: 中等部, 高等部. Rows include: 募集定員, 選抜資料, 実施期日.

*お知り合いの方々にお知らせください。

編集後記

20年ぶりの西高。そして、初めての会報編集作業。同窓生の繋がりが、大切さを再認識することができました。先輩のお話にいつの時代も変わらぬ西高を感じました。(J) 風呂に入っていて委員会に遅刻してすみません。(?) 「活躍する同窓生」七尾与史さんは、今とつても売れているミステリー作家です。本屋で見かけたら、手にとってみてください。私の今年の仕事は、これだけでした(涙)(Y) 校正には集中力が要りましたが、楽しくできました。(C) 会報編集に参加すると、西高同窓生のつながりをとても感じます。(M)

会報編集委員

- 左右田丈夫(中19回)
近藤 哲哉(高9回)
岩淵 千江(高39回)
西尾 和三(高24回)
山本 優美(高40回)
大隅 康人(高40回)
佐藤 恵美(高43回)
大村 明広(高44回)
中家美弥子(高44回)
古川 千栄(高44回)
新野 正(高45回)
大石 諭(高45回)
村上 樹美(高45回)
落合 優(高46回)